

教育委員会の活動状況

担当	点検項目	実 績	成果と課題	R3評価	R2評価	R1評価
	教育委員会会議等の実施状況	【定例・臨時教育委員会】 開催回数: 定例会議 12 回 臨時会議 1 回 審議件数: 専決報告 0 件 議案 11 件 内可決 11 件 【総合教育会議】 1 回 【町教委学校訪問】 4校実施	【成果】 会議では、西濃地区教育長会での会議内容や各学校での状況等を随時報告し、活発な意見交換がなされている。教育委員会関連の各種計画等の見直しの協議を実施した。 委員からは、メディア等で取り上げられている今日的な課題等について提起があり、議論をしている。 【課題】 コロナ禍の中、時間短縮等の制限がある中での学校訪問となり、細部までの聞き取りなど余裕がない状況での実施となった。	A	A	A
	調査活動の状況等	・全国町村教育長定期総会 (5月12日) ・西濃地区教委連絡協議会 (中止) ・西濃地区教委連絡協議会研修会 (中止) ・町内視察 5月～9月 各学校 ・岐阜県市町村教育委員会連合会 (オンライン11月5日) ・町研究発表会 (福東小学校 11月17日) ・郡教育委員研修視察 (中止)	【成果】 コロナ禍の中、オンラインを活用した会議など工夫がされ、効率よく会議等に参加することができた。また、町研究発表会についてもオンラインを活用した工夫がされ、コロナ禍の中であっても実践ができた。 【課題】 令和2年度は、会議等がほとんど中止となったが、令和3年度はオンライン会議等で開催されることが多くなった。移動の時間がなく効率よい会議となるなど、通常時においてもオンライン会議等で行うなど更なる工夫が必要である。	A	-	A

学校教育

◆各領域の評価は、町内教職員の評価を総合的に判断している。

領 域	重 点 目 標	成果と課題	R3評価	R2評価	R1評価
学校経営	全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	○時間外勤務が月45時間、年間360時間以内になるように、各職員がタイムマネジメントに心がけて生活できた。 ○毎週水曜日と8のつく日は18時退校、その他の日は19時退校が守られている職員が多くなった。 △19時を超えて勤務する場合は、必ず業務命令簿を事前に提出することを徹底する。	A	A	B
			82.6	81.1	77.4
研修	自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	○ICT活用フィールド校としての授業公開、計画訪問、校内研究授業等、全職員で研修する場があり、組織的・継続的な研修が実施され、資質向上につながった。 ○オンラインによる研修に参加する機会が増え、専門的な知識を学ぶことができた。 △時間外勤務時間が増えないように、工夫して研修時間を確保する。	A	B	B
			86.9	71.2	79.3
教科指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	○感染防止対策を行いながら、ペア交流をできる限り行い、自分の考えを発表したり、仲間の意見を聞き考えを深めたりすることができた。 ○コロナ禍で活動制限が多い中でも、デジタル教科書やタブレットの活用で工夫をした学習活動ができた。 △ただ対話するだけでなく、深い学びにつながる対話的な活動にする。	A	B	B
			81.5	69.7	75.8
道徳教育	自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	○道徳計画訪問を通して、多様な考えを引き出す指導方法を学ぶ事ができた。 ○道徳の授業を通して、児童生徒が自分自身の日常生活と比べて発表し、ノートに具体的に書くことができた。(道徳ノートの有効活用) △1時間の授業の中で、一人一人が自分の考えをもつことができるようにするため、自分見つめの時間を確保する。	A	B	B
			80.2	75.9	71.6
外国語活動	外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	○英語専科やALTを中心に、主体的で体験的な活動を取り入れた進め方ができているため、児童は活動を通して自然にコミュニケーションをとることができた。 ○オールイングリッシュによる授業が基本の形として定着してきている。 △授業だけでなく、休み時間や他の授業等においてもALTと関わることのできる時間を設ける。	A	B	B
			83.6	75.0	77.2
総合的な学習の時間の指導 (ふるさと教育・防災教育)	探究的な学習を通じて、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	○地域の方にゲストティーチャーとして来ていただく機会をつくったことで、より深く地域のことを学ぶことができた。 ○副読本「わのうち」を活用し授業を進めることで、資料集めを効率的に行え、輪之内の学習についてより深く学ばせることができた。 △各学年の内容やカリキュラムを年度ごとに検討し、より意味のある活動に改善する。	B	B	B
			78.9	66.3	72.7
特別活動	所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	○QU検査の結果を生かし、集団として全員が高まっていくよう学級経営に取り組んだり改善したりできた。 ○係活動や班ごとの役割の内容を知って、どの子もやりきることができるように見届け、価値付けることで、所属感が高まった。 △2回目のQU検査後に全体で情報共有し、さらに有効に活用する。	A	B	B
			84.3	73.1	77.0
生徒指導	共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	○問題行動や不登校傾向児童生徒の情報などは、報告連絡相談を密にして、組織で対応することができた。 ○心のアンケートを計画的に実施し、その都度教育相談を行うことで、児童生徒理解を図ることができた。 △学校全体のきまり(ルール)について、見直しを図り、現状に照らし合わせて変更する。	A	A	B
			84.1	81.4	77.2
キャリア教育	社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	○校外学習や出前授業を通して、様々な職業にふれる機会を作ることができた。 ○委員会活動や係活動をはじめとした仕事をすることで、労働観・職業観を育成ができた。 △学期ごとのめあてや振り返りをキャリアパスポートに蓄積し、自分の日々の成長を振り返る時間を設ける。	B	B	B
			72.1	63.4	68.7